

「SDGs大学ゼミ」で、探究学習と 大学での学びとのつながりを実感させる

奈良県・私立奈良育英中学校・高校



大学と意思疎通を図る高大連携室と、進路指導部が
協働し、探究学習を進路選択につなげる

かさまつたかひろ
笠松貴宏

同校に赴任して11年目。入試広報部長。
前進路指導部長。数学科。

くらもりひろし
倉森博司

同校に赴任して11年目。
高大連携室室長。

探究学習から
将来像を描かせる

はらじょうやすゆき
原條靖之

同校に赴任して8年目。
総合探究科主任。理科。

〈奈良育英中学校・高校の探究学習〉「総合的な探究(学習)の時間」にSDGsに関連する探究学習を実施。中学1年次は「ゴミ問題」、中学2年次は「里山での生活」、中学3年次は「自文化と異文化」をテーマに探究学習に取り組み、徐々に視野を広げていく。高校1年次は「ゴミ問題」を大枠のテーマとして個人で設定した課題を探究し、高校2年次はその課題を継続しつつ、修学旅行先でのフィールドワークをメインに活動。高校3年次は、それまでの経験を基に将来のキャリア像を描いた後、志望理由書を作成する。

つながりの目的

探究学習と大学での学びの
つながりを実感させたい



原條 ユネスコスクール
キャンデイブート校(*1)
である本校は、SDGsに

関連する探究学習を実施しています。高校1・2年次はゴミ問題を大枠のテーマとし、自然保護や教育など、生徒個々の興味・関心に沿った切り口で課題を設定して、探究学習に取り組みます。高校2年次の修学旅行では訪問先のバリ島で、ウミガメの保護や企業における貧困問題への活動などについて学ぶ、課題に応じたフィールドワークを行いました。それらの経験を通じて自分と社会とのかわりを考え、将来像を描いて進路選択ができるようになっています。



笠松 高大連携コース(*2)がある本校には、大学進学において学校推薦型選

抜の指定校推薦の枠が豊富です。過去には、早く合格したくて学部・学科にこだわらない生徒がいましたが、そうした進路選択は大学入学後にミスマッチを起こします。そのため、探究学習と大学での学びのつながりを実感させようと考えました。

*1 国内審査を終えて、ユネスコ本部にユネスコスクールの加盟申請中(または加盟申請を行う)段階にある学校のこと。 *2 同校と協定を結ぶ大学の指定校推薦を利用しながら、難関私立大学への進学を目指すコース。

探究学習にこうかかわった……

共通点のSDGsを切り口に
大学の模擬講義を実施



倉森 高大連携の専任職員として生徒の進路選択を支援する中で、生徒に大学での学びをもっと意識して進路選択をしてほしいと考えるようになり、「SDGs 大学ゼミ」を企画しました。本校はSDGsを探究学習のテーマとし、多くの大学もSDGsに取り組んでいきます。その共通点を切り口にして大学の模擬講義を行うことで、生徒が自分の探究学習と大学での学びにつながりを感じられるのではないかと考えました。

2021年度に高校2年次の高大連携コースで同ゼミを実施したところ、生徒から「大学での学びにもっと向き合いたい」「進路選択の幅が広がった」などの声が上がりました。他コースの教師からも「全生徒が目的を持った進路選択ができるようになることに役立つので、全コースで実施したい」といった提案がありました。そこで22年度は2年次全員を対象に年5回、23年度からは2・3年次全員を対象に年3回、1回あたり20〜25のゼミを設けました。生徒は毎回1つのゼミを選んで受講

今後の探究学習を展望する……

探究学習とゼミの
相乗効果を目指す



倉森 ジェンダーに関するゼミを受けたある生徒は、その後、講師が行うワークショップに参加するなど、探究学習を深めています。また、「世界津波の日 高校生サミット」に参加した生徒からは、事前学習がしたいと相談され、防災を研究する大学教員とオンライン勉強会を開きました。さらに、ゼミをきっかけにその講師の下で学びたいと

します。事前学習は「総合的な探究の時間」で行い、選んだゼミの内容に関して調べてレポートにまとめます。そのレポートは担任に加えて私も見て、不十分であれば、担任に対象の生徒に声をかけるようにお願いしています。
笠松 様々な分野のゼミがあることで、探究学習も進路選択も、生徒が明確に目的意識を持つきっかけになっていると感じています。また、倉森室長が普段から大学との関係を丁寧に築いてくれているため、講師の大学教員も本校のニーズにマッチしています。



笠松 様々な分野のゼミがあることで、探究学習も進路選択も、生徒が明確に目的意識を持つきっかけになっていると感じています。また、倉森室長が普段から大学との関係を丁寧に築いてくれているため、講師の大学教員も本校のニーズにマッチしています。

つながりのPoint

“学び”重視でゼミを選べるよう
講師の大学名を伏せる

生徒に配布するゼミのリストには、「タイトル」「概要」「関連するSDGsの目標」「キーワード」「講師の専門分野・経歴」のみを掲載し、講師の所属大学は明記していない。大学名に引きずられず、生徒が純粋に自分の興味・関心に基づいてゼミを選べるようにするためだ。男子生徒が女子大学の講師のゼミを受けることもあるが、様々な大学の学びを見て、自分の興味・関心を深めるきっかけになっているという。

講師の専門分野や出身大学・学部、職歴などを掲載しているのも、生徒の視野を広げるための工夫だ。「自分が関心のある分野の研究者がどこで何を学び、どんな経験を積んできたのか。その道筋は多様であり、どの大学で学ぶかではなく、何を学ぶか、どの先生の下で学ぶかが重要であることに気づいてほしい」と倉森室長は語る。



写真 ゼミでは講義だけでなく、グループワークなども行われる。また、ゼミ当日には講師の所属大学が公表される。

志望校を変更して進学した生徒もいます。そのように、探究学習を通じて大学とつながることで、大学名ではなく、自分の大学での学びを重視して進学する生徒が増えてきました。



原條 高校1・2年次は、生徒が個々に課題を設定して探究学習に取り組みます。生徒が探究を深めれば深めるほど、担任が対応し切れない状況になっているのが課題です。高大連携室の支援で、生徒が大学教員に直接アプローチして助言を受けられるようになれば、探究学習がより深まると期待しています。

24年度からは高校1年次に同ゼミを拡大するので、生徒は早くから探究学習と大学での学びとのつながりが分かるでしょう。生徒がゼミとの相乗効果で探究学習を深め、進路選択に生かせるよう、これからも支援していきます。

学校概要

設立 1916（大正5）年
形態 全日制／普通科／共学
生徒数 1学年約400人
2023年度卒業生進路実績
国公立大は、大阪教育大、奈良教育大、奈良女子大、和歌山大、大阪公立大、奈良県立医科大、奈良県立大などに18人が合格。私立大は、同志社大、立命館大、龍谷大、関西大、近畿大、摂南大、関西学院大、武庫川女子大などに延べ633人が合格。